

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報

第6号

果 樹

発行日 平成26年 8月28日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ りんご 果実肥大はほぼ平年並み！早生種の適期収穫・すぐりもぎの徹底を！！
- ◆ ぶどう 品種特性が発揮される適期収穫を！！

りんご

1 生育状況

(1) 果実肥大

定点観測地点(表1)の果実肥大(横径)を県平均でみると、いずれの品種も概ね平年並となっています。本年は開花が早かったため、初期の果実肥大は良好でしたが、6月いっぱいまで乾燥した気候となったことに加え、4月の凍霜害等により側果を中心に着果させている園地では果実肥大が緩慢となる事例も見られます。樹勢調整のために奇形果やサビ果などを着果させている園地は、特に見直し摘果を実施しましょう。

(2) 果実品質

定点観測地点の「つがる」の果実品質を県平均でみると、硬度及びデンプン指数はほぼ平年並み(図1、3)、糖度はやや高い(図2)傾向となっています。しかし、地域的なバラツキが見られ、沿岸部では硬度が低下している地域も見られます。

開花は早まりましたが、これまでの果実品質の状況から収穫期が極端に早まる可能性は少ないと考えられます。また、昨年は9月から10月に記録的な高温と多雨となったために、着色が遅れ、黄色品種では地色の抜けが遅れる事例も見られました。長期予報によると曇りや雨の多くなる見込みであり、着色が遅れる可能性があります。適期の着色管理並びに適期収穫に努めましょう。

表1 りんごの果実肥大状況

(単位: mm)

8月21日時点 の生育状況	つがる					ジョナゴールド					ふじ				
	本年 (H26)	前年 (H25)	平年	前年 比(%)	平年 比(%)	本年 (H26)	前年 (H25)	平年	前年 比(%)	平年 比(%)	本年 (H26)	前年 (H25)	平年	前年 比(%)	平年 比(%)
岩手町	83.2	79.1	80.3	105	104	75.7	75.2	78.9	101	96	71.9	72.8	71.8	99	100
盛岡市	86.9	77.0	80.1	113	108	82.0	72.5	78.1	113	105	76.0	69.3	72.7	110	105
紫波町	74.6	75.6	83.9	99	89	70.1	70.5	79.1	99	89	77.3	73.8	74.7	105	103
花巻市	90.7	85.5	81.5	106	111	82.8	79.3	80.0	104	104	75.0	74.6	71.7	101	105
農研センター	87.4	82.9	82.7	105	106	79.4	77.2	79.8	103	99	75.8	74.0	73.7	102	103
北上市	—	—	—	—	—	80.8	82.0	82.6	99	98	77.9	77.4	77.0	101	101
奥州市前沢区	81.9	86.3	83.3	95	98	77.7	76.7	78.7	101	99	74.9	76.5	75.1	98	100
奥州市江刺区	82.8	75.7	80.0	109	104	81.1	76.0	79.4	107	102	70.9	65.2	70.6	109	100
一関市花泉町	86.2	93.0	82.1	93	105	77.6	80.3	78.9	97	98	70.6	68.2	70.5	104	100
一関市大東町	—	—	—	—	—	82.3	77.0	77.3	107	106	75.6	73.0	73.2	104	103
陸前高田市	79.7	75.2	82.4	106	97	81.4	80.9	77.5	101	105	75.0	68.9	71.7	109	105
宮古市	79.4	79.3	80.2	100	99	80.6	80.9	80.5	100	100	73.8	75.0	74.0	98	100
岩泉町	84.1	75.0	80.7	112	104	85.0	80.1	76.0	106	112	72.3	71.7	72.4	101	100
軽米町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	72.6	68.2	68.9	106	105
二戸市	—	—	—	—	—	76.8	73.7	79.2	104	97	79.3	74.2	73.3	107	108
県平均(参考)	83.0	80.2	81.5	103	102	79.5	77.3	78.9	103	101	74.5	72.1	72.7	103	103

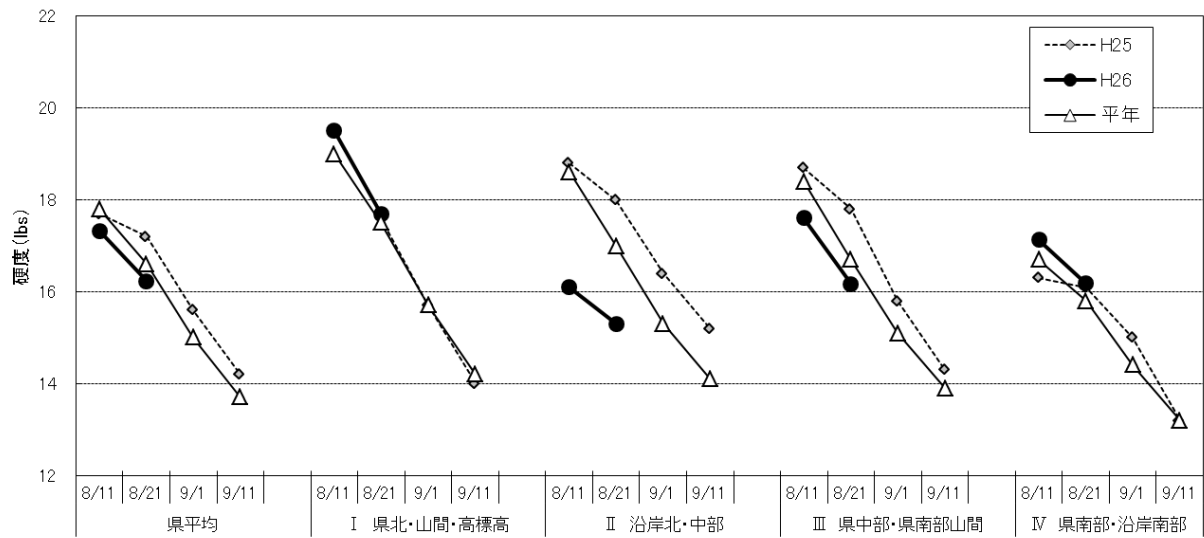


図1 つがるの硬度の経時変化

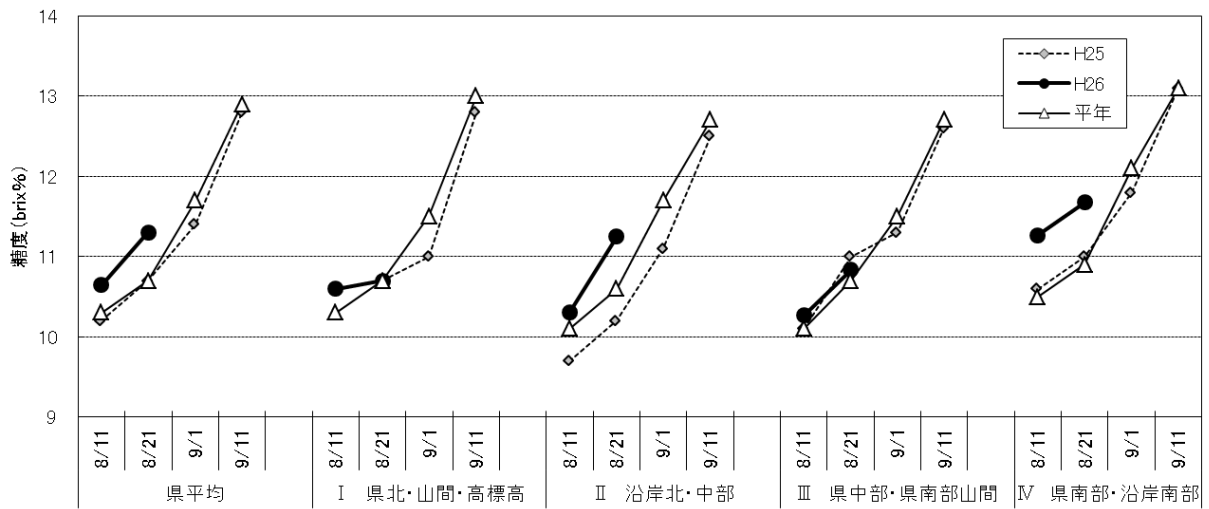


図2 つがるの糖度の経時変化

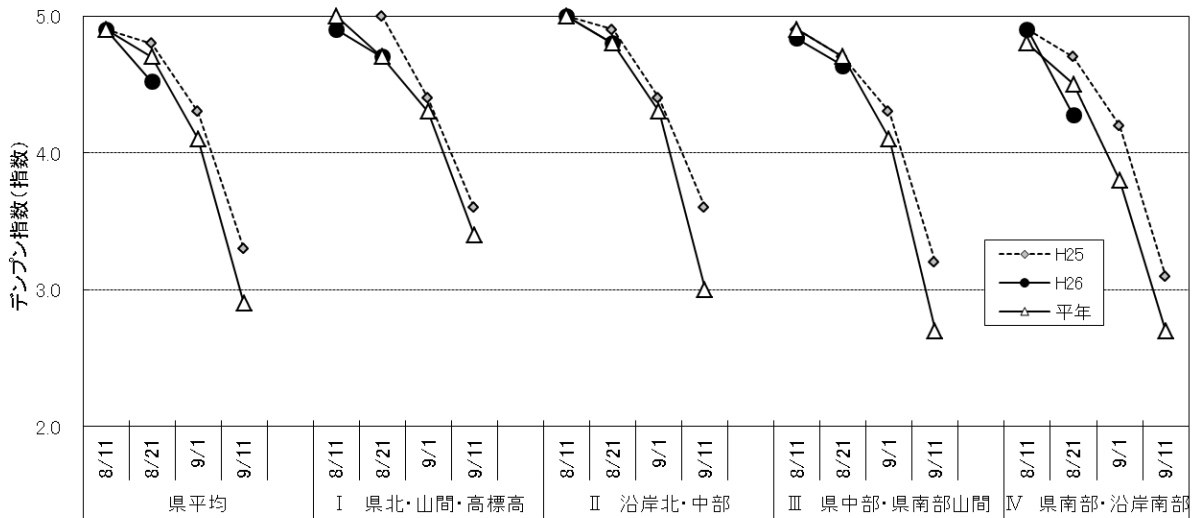


図3 つがるのデンプン指数の経時変化

2 管理作業

(1) 早生種の着色管理

- ア 「さんさ」、「つがる」について作業を実施します。
- イ 1回目の軽い葉摘み終了後、陽光面の着色が進んでから、葉や枝カゲをつくらないように玉回しを収穫まで2～3回行います。玉まわしと同時に適当な強さに葉を摘みます。しかし、果皮に急に直射日光が当たると日焼けが発生しますので、徐々に葉摘みを進めましょう。
- ウ りんごの着色適温は10～20℃です。気温の高い日が続くと、必要以上に葉摘みを強くしても着色は進まないため、過度の葉摘みとならないよう注意します。

(2) 収穫 (表2参照)

- ア すぐりもぎが基本です。特に熟期が不揃いな「つがる」や「きおう」は徹底しましょう。
- イ 「きおう」は、ツル浮き (内部裂果) が発生しやすく、裂果したものは正常果よりも早く熟しますので、特に収穫前半はツル浮き果が混入しないよう注意してください。本年は8月に入って降水量が多く、ツル浮きが発生していますので、特に注意が必要です。
- ウ 「つがる」は、収穫後の果肉の軟化が早く、また、収穫が遅れると果面に油上がりが発生しやすいので、地色に注意して遅取りを避け、収穫後はできるだけ早めに予冷しましょう。
- エ 落果防止剤にストッポール液剤を散布した場合は、散布日から7日以上開けて収穫します。

表2 早生種の収穫期の目安

品種	満開日 起算日数	硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	デンプン 指数	カラーチャート 指数*
さんさ	115日	13.5～14	13～14	2～3	2～3
つがる	115～125日	13～14	12～14	3～3.5	2～3
きおう	115～125日	13～14	13以上	2～3	2.5～3.5

※:さんさ、つがるはふじ地色用、きおうはきおう表面色用を使用

(3) 「紅いわて」の収穫について

ア 収穫前管理

「紅いわて」は着色の非常に良好な品種であるため、軽い葉摘み作業でも十分に着色します。陽光面が着色した時点で果面に付着している葉を取り除き、枝かげをつくらぬよう軽く玉まわしを行いましょう。「紅いわて」はつるが短い傾向にあるため、玉まわし作業は慎重に実施しましょう。

イ 収穫期の留意事項

「紅いわて」は着色の良い品種であるため、着色のみで収穫を判断し、収穫が早すぎてしまうと食味が劣り、品種の評価を落とすこととなります。食味を重視し、直接販売を実施する場合はデンプン指数2以下、系統販売等、輸送して販売を実施する場合はデンプン指数2～2.5を目安に収穫を行ってください。糖度については13%以上を目標とし、硬度は13ポンドを下回らないよう注意してください。

表3 「紅いわて」の年次別果実品質 (高接ぎ)

(岩手農研)

年次	満開日 (月日)	収穫日 (月日)	満開日 起算日数	果重 (g)	硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	酸度 (g/100ml)
2013	5月9日	9月24日	130	268	14.5	14.3	0.28
2012	5月8日	9月19日	134	307	14.4	13.8	0.31
2011	5月16日	9月30日	137	282	12.6	14.4	0.32
2010	5月14日	10月1日	140	283	14.0	13.8	0.28
2009	5月6日	9月18日	135	292	13.0	13.4	0.34
2008	5月2日	9月22日	143	248	16.8	13.3	0.36
2007	5月11日	9月28日	140	261	16.3	15.1	0.36
2006	5月15日	9月28日	136	242	15.0	14.8	0.32
2005	5月14日	10月4日	143	275	13.5	14.0	0.34
2004	5月6日	9月17日	134	280	13.5	14.0	0.40
2003	5月7日	9月28日	144	243	16.6	15.1	0.34
平均	5月9日	9月25日	138	271	14.6	14.2	0.33

3 病虫害防除および気象災害対策

(1) 病虫害防除

今後の気象条件によって、斑点落葉病や褐斑病、ハダニ類等が発生することがあります。特に今年は8月入って降水量が多いため、斑点落葉病や褐斑病の多発が懸念されます。予察情報等を参考にし、必要な防除を実施しましょう。農薬を使用するに当たっては、使用基準（倍率、収穫前日数等）に十分注意してください。

(2) 台風対策

これから、台風が多く発生する時期になります。強風で倒木が発生しないよう、防風ネットの設置、支柱との結束を確認してください。また、気象情報に注意し、台風の接近前に収穫を進めるなど、被害を最小限にできるよう対策を講じてください。

(3) 湿害対策

台風に伴う大雨や秋の長雨など、園地内が過湿となった場合、裂果や根部の障害による樹勢衰弱の要因となります。園地内に水が停滞しないよう、溝を掘るなど排水対策を講じましょう。

(4) 日焼け果

今後も気温が高く推移する見込みのため、日焼け果の発生が懸念されます。前号で原因と対策について記載していますので参照してください。

ぶどう

1 生育状況

8月25日時点の定点調査地点における「キャンベル」の果実品質は、果実肥大、糖度ともに平年より高くなっています（表4）。また、着色開始は平年より早い状況でしたが、その後の天候不順により着色の進行は遅れ、一部に裂果も見られます。

収穫時期は、糖度や酸抜けなどの果実品質を十分に確認してから行いましょう。

2 管理の要点

(1) 収穫

収穫は着色、糖度などの食味に留意しながら、表5の品種ごとの基準糖度に達してから行います。過熱になると商品価値が落ちるので、適期収穫に努めましょう。

早生品種や栽培法によっては、すでに収穫期に入っているものもあると思われませんが、収穫に当たっては、農薬安全使用基準の収穫前日数には十分に注意してください。

収穫は果実温度が低い早朝から午前中に行います。降雨後の収穫は糖度も下がり、輸送中の腐敗も多くなるので避けるようにしましょう。

選果・調整は果粉を落とさないように穂柄を持ち、未熟果、腐敗果、裂果等を除き、出荷形態に即して房形を整え出荷しましょう。

(2) 裂果対策

収穫直前の急激な土壌水分変化は、裂果の発生を助長します。土壌が乾燥し過ぎないように、こまめな雑草の刈り取り、樹冠下に敷きワラ等でマルチするなどの対策を実施します。また、降雨があった場合には、過剰な水分を早期に排水できるよう、根域の周辺にビニール等を敷く、溝掘り（明渠）するなどの対策を実施しましょう。

「紅伊豆」などの雨よけハウス栽培では、温度が高くなりやすいハウス中央部などで果実の着色不良や果肉の軟化が、裂果や脱粒を引き起こすことがあります。気温が高くなると予想される日は、サイドのビニールを巻き上げる、換気扇を利用する等温度が上がりすぎないように努めます。

表4 ぶどう(キャンベル)の生育状況(定点調査地点:紫波町赤沢)

	8月25日現在				
	新梢長(cm)	節数(葉数)	房長(cm)	果径(mm)	糖度(%)
本年(H26)	111.7	15.3	13.4	20.5	14.1
前年(H25)	101.1	13.4	16.1	20.1	12.7
平年	136.8	17.8	15.6	19.4	11.3
平年比	82%	86%	86%	106%	125%
前年比	110%	114%	83%	102%	111%

表5 品種別収穫時期の目安

品種	基準糖度	房の状態	備考
キャンベル	14%以上	房全体が黒紫色	
デラウエア	18%以上	着色完了2～3日後	酸抜けが遅い、食味重視
紅伊豆	18%以上	房全体が鮮紅色	過熟果は軟化や脱粒が多い
ハニーブラック	20%	房全体が紫黒色	脱粒少ない
サニールージュ	18%	房全体が紫赤色	脱粒少ない

次号は9月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 屋内では遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が著しく上がらないようにするとともに、風通しをよくし、室内の換気に努めること。作業施設内に熱源がある場合には、熱源と作業者との間隔を空けるか断熱材で隔離し、加熱された空気は屋外に排気すること。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。